

第23回日本クラブユースサッカー選手権（U-15）大会

Fグループリーグ3回戦（8月11日）		天候	曇	風	弱	ピッチの状態	良
		気温	26.7℃	湿度	74%		
<div> <div>コンサドーレ札幌ユースU-15</div> <div>0</div> <div> <div>0</div> <div>—</div> <div>0</div> </div> <div>0</div> <div>清水エスパルス</div> </div>							
システム				システム			
4-4-2				4-4-2			
<div>【コンサドーレ】 Gk伊藤 DF坂本・松浦・永井・和田 MF神田・堀米・高木・小山内 FW近藤・下田</div> <div>交代 分 中川（小山内） 68分 前（和田）</div>							
<p>12時59分清水エスパルスのキックオフで、グループリーグ第3戦のホイッスルが吹かれた。立ち上がり危ない場面が多いコンサドーレ、ベンチから檄が飛ぶ。6分のエスパルス影山が放ったシュートはヒヤリとしたが序序に落ち着き始める。コンサドーレ最初のチャンスは小山内からトップの近藤へとつなぎ、ペナルティエリアに進入、後ろから足を掛けられたように見えたが、判定はコーナーキック。永井がヘディングで合わせるがゴールを割ることはできない。蒸し暑さのせいなのか、コンサドーレイレブンの動きが鈍く感じる。</p> <p>27分やっとコンサドーレらしいポゼッションからコーナーキックを得る。エスパルスGKがパンチしたボールを松浦が狙ったが、バーの上を越える。神田も30mのシュートを思い切り打つが、僅かに外れる。</p> <p>両チーム共に決定力を欠き、0-0で前半を終了。同組の鹿島アントラーズVSセレッソ大阪も0-0でゲームが動かず前半を終了した。ハーフタイムの名塚監督は、このゲームが最後のつもりで戦え、ここで頑張らないでいつ頑張るんだと、メンタルの強さを出すように指示を与えた。この気持ちが選手たちに伝わって欲しい。</p> <p>後半は小山内と中川が交替、神田を右に、中川を左の布陣でスタート。後半が始まった。監督の思いがまだ伝わっていないのか、集中力が戻らない。似たようなチームカラーだが、ボールへの寄りは今のところエスパルスが一步早い。一進一退の攻防が続く中、2年生の堀米、神田、が攻守に頑張り、チームを引っ張る。</p> <p>中盤でボールを奪い、堀米→中川→下田とつなぎ、フィニッシュは2年生の神田。強烈なシュートは惜しくもGKの正面だったが、チームに渴を入れる2年生の活躍は褒めてあげたい。</p> <p>一方のエスパルスも、勝つと決勝トーナメント進出の目が濃厚。最後の力を絞って、コンサドーレゴールに迫ってくる。23分コンサドーレのゴール前、松浦と永井がルーズボールを一瞬譲り合い、ピンチを招く。チャンスもたくさんあるが、ピンチもたくさんある展開、シュート数コンサドーレ10、エスパルス13が物語っている。のこり5分を切った。気になる同組のもう1つの対戦は、鹿島が4-0とリードしている。このまま引き分けでも決勝トーナメント進出が決まる。しかし戦っている選手たちは、そんなことはまったく知らない。そっと教えてあげたい気持ちになったのは、コンサドーレイレブンの必死さが伝わってきたからだろう。コンサドーレついに耐え抜きタイムアップのホイッスルを聞いた。うなだれるエスパルスの選手たち。コンサドーレの選手たちも、死闘のつかれなのか、決勝トーナメントに進めないと思ったのか、膝を落としがっかりしているようす。挨拶が終わり控えの選手たちから、結果の報告を聞き、現実を知って安堵な表情を浮かべた。明日は休息日。ゆっくり休んで明後日11:00Eグループ1位のガンバ大阪とベスト8を賭けて激突する。</p>							
戦評 加藤 孝俊							